今人明題集

後編

上

詩歌の集ども見る者の意をおし
てもかるまゝおほよの名所旧蹟を後学の為に
名をも称をも弁へしらしめんとて俳諧
の集ともなく撰者の筆若干ふるひ
集る句をも多きうへ井ぬ也ゑ兼漏
等るもをもて筆をとゞめ難しと覚ゆる
ゆゑ女性雅客唐吟の渡海をこ

津之春を初めまつの緑をも
色そへむ

安政三年七月

大江由拙

今人の題集江編春之部目録

歳旦之部

元日一初雞二鳥三春三ヶ日の妻
君ヶ妻二初日四初富
年経五年玉六初茎
い初鏡六初雪七年始
ある八初屠九初春
門雲九松の内十
繪葉十大福十一
傳ヶ蓬萊十一
五万歳十二唱歌十二
万葉十三四つ角十三猿
破ヶ弓十四手綱十四著衣始
縄初十五歳男十五
今年十六初荷十六水
乾坤之部

正月十六日 廿七 初梅 人の日 子の日
雛 杖 十八 義人 うんと
悦 経 十九 余寒 炭竈 春愁
春の宵 廿 春の夜 春の日 廿一
深 氷 廿二 ゆううう 春の雪
雪 雪 廿三 雪間 廿四 雪解
多湿 永 廿五 陽炎
春の山 芝 廿六 暮遅 山笑
春の色 永 廿七 東雲
廿日月 花 廿八 二日月
朧 巾 三日月 弥生
多雲 廿九 春浅 春惜
行春

植物之部

小松曳 卅一 檀 芭蕉
芹 蓴 卅二 仏の座 土筆
蕗の薹 蘆の芽 若 卅三 春の艸 土筆
木の芽 梅

梅 卅四 梅雪 卅五 梅若木
枝 柳 卅六 柳糸
名木 桜 卅七 桜雲
桜 卅八 四方
嶺 卅九 桜狩
巌 四十 躑躅
山躑躅 四一 黄心樹
花 四二 蘭会奠 桜桃
菜 四三 海棠 四四 木瓜
菜畑 つくし 四五 蕗の薹
桃畑 菫畑 四六 青麦
麦 四七 麦の芽
麦の穂 四八 白魚
鰯 四九 蜆
乙鳥 五十 雛 五一 燕
鶯の巣 五二 雲雀 五三 駒鳥
巣 五四 蜆
田ぶし 五五 帰雁 五六 引鶴
小鮎 五七 蝶
蚕 雲雀 五八 鶏合 蛙

食類之部
海苔 廿八
神祥之部
御忌 五十九 物年、涅槃、
主生踊、御印会、峯入、
春朗詠 五十九ウ
夏之部
乾坤之部
四月一日 衣更 短夜、
懸 日、 扇 団扇、
五 菜漬日、 蚊帳 三
八 梅、 ウツボ 口
六月 水無月、 氷室 地、
卯花 五月雨、 扇うる、
夏 白 雨 十 夏の雨、 暑 八ヘ、
日傘、
大夫数、
日傘、
扇地、
暑、
九雲の峰、
土用干 二

浚井、歩ム
植物之部
牡丹 十二 苗 葉、 蕊ヌキ
麦の秋 十四 穂の色、 若葉 柳
木下闇、 除ク 十六 葉 柳
桐の花、 柳の色 十七 茂リ
夏木立、 ウツボ、 若葉、
ネムの木、 合歓 十八
蟬 題 十九 田 植、
川骨、 毛ノ色、
蚊帳、 蚊 帳、
蚊遣、 百合花、 蚊 苗、
蓮 葉ノ上、 蕾ノ色、 外 植 廿二
蓮 葉ノ上、 夕 白
青田、
凌霄、 外ノ波、
真菰刈、
生類之部
蚊 廿四 岡古ム 廿七 蚊ノ
蚊ノ声、 蚊帳 廿八
牡蠣 廿九 蠅 三十

牧　三十 故当火、雪
多等、青陵、通暢
浮藻 世三 多雜、羽族多
毛虫、
衣食之部
更衣 世五 綿袍、袷
衾、帷 世六 幄、
袖鞿、小鮮、糒
砂糖水、
神祠之部 世七 仏生会
夏籠 世八 灌佛、
不二洛、祇園会、御祓
公事之部
青苧 世八
一題一句等追加之部 世九

今人吟題集後編

春之部

元日　元日と吟ずるや却て元日の景と
ならず人事となるの類
元々や雑事も多きの類
元々や多忙にして元日の存
元々や書初ゆゑ元旦ゆゑ
元々や元服や元結初
元々や雑煮ゆゑ一膳
元日や雑煮清汁

初雁や
初雁や雲井の空や思ふらん
初雁や何ぞや。と芳
初雁やなきつれてゆく
初雁や雁金の後のはつ雪
初雁や幾夜ねざめの
初雁や
初雁や
初雁や

初夏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

栗旭
曙梦
布丈
一の翁
一宣
羊旭
抱義
麦森
剣雄
五休
夢堂

弥宝

一ゑ
龜水
芭圃
像文
嘆舜
時行
夢玖
曲聲
紅樂
文雀

初春や子をあつめて押うつる　梅笠
初子やふゑをあつめて押うつる　有水
初空や子をあつめて押うつる　竜朱

初日

初日さす松をまつ〳〵年の波　雨秋
中空をこのごろ初日の影の松　赤水
玉光以ふるき初日の影の松　乙湖
初日さす松をまつ〳〵年の波　静江

年始

年礼

十分な御礼申述候　雅顕
年賀の御礼申述候　硯水
大勢之文字ならべ候　エト
二三軒御礼ニ参り候　二葉
年賀の礼や居ながら　十籟
とり急ぎ年賀の礼申述候　周雨
とり急ぎや書ながら一筆の　文華
とり急ぎ年賀の礼申述候　抱牧
とり急ぎや書ながら一筆の　生や
とり急ぎ年賀の礼申述候　狙仁
とり急ぎや書ながら一筆の　静江

初霞　仙目

初筝　一重

初霞　仙目
初筝　一重

初筝や竹の笹葉も弥よ強る
初筝や後るゝ雪も折ふしる
初筝や四つ手に結ふ注連飾
初筝や子共の為の羽子板
初筝や小さき門の雪の上
初筝や入湯の沙り一昊
初筝や子共あそぶ入湯の沙り
初筝や子共あそぶ入湯の白び森

初筝　訥垂
初筝　玉清
初筝　旭化
初筝　雪渓
初筝　喜舟
初筝　一昊
初筝　船古
初筝　玉敲
初筝　ふ二九
初筝　了和
初筝　山青

物屋二戸とあきたる家を見て初屋 一調

住くらべみたる迹やすゝき原 芝圃

三うら角けふ見初るこゝち 箕山（エト）

初雪居またゝく文字の軒の灯 和芝居

箕水 雪の水や汲井戸へさゝる迹 一調

雪水や芝汲井戸へさゝる迹 箕水

雪水の清きこゝろや初芝居 芝圃

雪水のいきしたる灯ともの春 一調

雪水や汲ひとすくひ赤蜻蛉 箕水

鶴り

文里
十孫
雪山
森岳
東成
巨将
俊友
文雄
外鹿
ふ二九
士敬

門雪

文芳
不二九
貂布
生賀
等載
一下
夷岳
之覚
波路
雪坂
等天

松の内

福業

古箸

山雪
波覓
為ん女
正福
花古
梅裡
和歩
福之
波酔
梅窓
日ヲ

雑著

一幸
有水
山室
井名
初春
谷古
完酔
幸ん窓
井幸
生也
雪坂

大福　　桜山
大福やこゝろもとなき　雑煮椀　　生賀
屠蘇　　展翁の破風の手ある場所　　九起
俵子　　俵を重ねよとの　　一徳
俵子や八俵ありてその破　　世貞
俵子や一俵ありて俵の　　一壷
俵子や俵の数の多き年　　柳重
俵子や俵の数の多き年　　梅月
俵子や俵の数の多き年　　壷巻
俵子や俵の数の多き年　　宗之

蓬莱　　蓬莱の磯廻ありて夜の雨　　春目
蓬莱や磯のそこなる十五夜　　挹翠
蓬莱や唐の土ある古硯　　雪三
蓬莱や海山の雪をふまえ　　永壷
蓬莱や唐土ありて硯　　南丈
蓬莱や実を思ひこの能　　春久楼
蓬莱や唐土ありて硯　　尾村
蓬莱や唐土ありて硯　　沾々
蓬莱や唐土ありて硯　　水年
蓬莱や唐土ありて硯　　来竜
蓬莱や唐土ありて硯　　未雄

当国　　当国や猪と真名古　　四作
当国や猪と真名古　　四作
当国や猪と真名古　　四作
当国や猪と真名古　　四作
当国や猪と真名古　　四作

小夏原
五万米

涼川
雪嘆
文拾
宋有
嘆薛
乃女
文雅
公弼
渡光
舛龍
称雪

ふ二花
士敲
多信
箏政
像文
一重
燕葵
双武
笆園
山子
称垂

梅宇
高山
茶邨
雪章
猪之
邑圃
山雪
雪枝
月弓
一富
松角

士毅
夕照
公集
河暁
静邑
茶癡
共毅
像支
一止
一弓
梅裡

著衣始

掌梅　琴
隊友　一情
松雲　西語
霧月　宿之
斗雯　杏井
夏之　五休

手習始

十像　掌梅
像友　隊友
水雲　霧月
貉石　宿之
香林　斗雯
東雪　夏之
一马　五休

掃除始

蔵開

年　初　多く初や帆をうつす沖つ出
　　多初の篝漕来うつゝ哉
書　初　書く初や只歩くにもうたゝ
　　あるうち初こゝろ書出す初
　　こゝろよく筆をうごかす
参　年　出ぬ間の二日の暦よこの
　　春のまつて去ぬ間の暦哉
　　こゝの燈を春待ちまつて春
今　年　松を吹風もうら〳〵春
　　此ごろの行ゝしさを一つ
　　年立や今年の吟初句

五具
帝く
宿之
吟旅
賀勢
負之
休處
静正
松谷
一篤
世年

初荷　小まくらの初荷を乗るの海
　　荷てまだ来ぬ船て初荷の車
　　帆舟のおくまで一の初荷哉
　　絵入や安の初荷を西まで
　　口の狭いうるめ一なり初荷哉
　　うらゝかる酒の樽也れいそ
　　こゝろ也帆の一のもの
　　きり屏風加賀也こゝろ日
　　高よまた一おく等一ぬ
　　こゝろ仙のさゝそこゝろ
　　まゝ初春

三ケ日

西ま
彼路
等載
由整
等載
渡武
尋秀
雪旅
鈴賀
静正
菜旅

初春

正月

正月やみな人こゝろ
春のごとうらやこゝろ
猶共たゞ新年の
こゝろかなこゝろ
初春やとゝろ人の春
初春や元日や戈至
正月や雪ふる
正月や鳥の人通り
正月や春立ぬる
正月や春立ぬる
正月や春立ぬる

斗雲
精中
雅顕
雪坂
赤岳
雙岳

曲摩
春文雄
祖仁
斗米

晴日

初春や人のこゝろ晴日和
うれしやもゝ日の
笑ふごとく雪も
ほゝえむ春日和
雪川もやむ
春はよろこぶ人多し
うらゝかの日の
雪の中に梅咲
人みなや雪うち
人のはや毎

為山
玉江
葉雪
雪阜
接山
多代女
永雪
等少
仙月
負之
南文

卯槌の日

人のもとやまのまゆ形の庵の味　　玄月
人めもるやまもるまゆの猿も聟　　秀真
杖もうごき出て十歩ばかりのものの春　　暮雨
出ようとする人の去ぬるものの春　　其角
庵出ればまた立ならぶものの春　　素堂
梅さくや人の心のうれしさも　　多々良
岸をはなるる舟のもどりの春　　北枝

猶杖猶杖や土もとゝ及ばこゝ　　文皮
蓑のみのきて養老の滝を見ん　　完路
蓑の代に何を singing 雨の笠　　其角
蓑のや人をも猿まで五月雨　　俊文
やみや月夜も見えて茅ぶきの　　志考
茅ぶきのそこやかしこや雨の月　　五休
雨の夜のもてなしけふは早苗とり　　亘亭
蓑笠やはや時雨ふり出る　　蒹史
蓑笠やはや時雨ふり出る　　五臭
蓑笠やはや時雨ふり出る　　仆右

爆竹

尤義長

前無

蕭桂

山雪

一十七

十陳

靜雪

冰壺

芳陽

三（ムサシ）草

猪兵

等哉

波路

俊友

十孫

司祝

梳收

義

一十七

平林

藥雅

有業

梅雅

宮雅

春宵　一
春雨　松宇
　　朱朱
　　蒙雲

春の月

　　色湾
　　多代女
　　一馬
　　長森
　　負人
　　名人
　　奥岳
　　翠簀
　　淡山
　　山子
　　松禹

一妻
玉椿
日玻
妙妙
美園
南海
玉碗
世負
翠簀
漁月
唫妙

六瀧
花稱
菊園女
雪圃
宋應
魯生
一草
松谷
千帝
宗義
玉清

春の川

外文
夷岳
左人
巴無
行芳
三角
壺谷
未魁
松民
曽坂
澱香

花のころこころの川
山ざくらやうやく咲りゆくまゝに
人さくら咲ころやさく
さくらさくころまでの雨
深さ人波のよせるやうに
いつまでもうつる雲の水
春ふかし波のよせるやうに
あるれども深きを知るの水
家数の減ずるやうに思ふやさくの川
さくらのころ春の川

漂砂

波生まれ波こゝろなく行うさの川
柳散るやうにそゝぐや雪
漂氷月を掬しそゝぐ春
漂ふや苔ふかき水
根形ふかき水ありてうるをを
池まで水をひきて
ありてうるをを
ありてうるをを

解氷

一篇
麦秀
雪九
士数
新雨
西馬
鶯花
素月
峰於
一馬
由誓

詠ふるや砂の流れて日
頃ふるる新雨
春の雪晴近き峯の雪

淡雪

淡雪や池の面にも降りかゝる
淡雪や池のおもてへ降りかゝる
淡雪や池の面にも降りかゝる
淡雪や池のおもてへ降りかゝる
淡雪や池の面にも降りかゝる
淡雪や池のおもてへ降りかゝる
淡雪や池の面にも降りかゝる
淡雪や池のおもてへ降りかゝる
淡雪や池の面にも降りかゝる
淡雪や池のおもてへ降りかゝる
淡雪や池の面にも降りかゝる
淡雪や池のおもてへ降りかゝる

金沢
葉越
東茜
及精
茶之
双武
亀陽
蓑笛
晴河
蓑雪
雪政

雪間

雪間あらはれかゝる雪の岡
雪間あらはれかゝる雪の岡
雪間あらはれかゝる雪の岡
雪間あらはれかゝる雪の岡
雪間あらはれかゝる雪の岡
雪間あらはれかゝる雪の岡
雪間あらはれかゝる雪の岡
雪間あらはれかゝる雪の岡
雪間あらはれかゝる雪の岡
雪間あらはれかゝる雪の岡
雪間あらはれかゝる雪の岡
雪間あらはれかゝる雪の岡

雪解

雪解や池の面にも降りかゝる
雪解や池のおもてへ降りかゝる
雪解や池の面にも降りかゝる
雪解や池のおもてへ降りかゝる
雪解や池の面にも降りかゝる
雪解や池のおもてへ降りかゝる
雪解や池の面にも降りかゝる
雪解や池のおもてへ降りかゝる
雪解や池の面にも降りかゝる
雪解や池のおもてへ降りかゝる
雪解や池の面にも降りかゝる
雪解や池のおもてへ降りかゝる

霙

霙
霙
霙
霙
霙
霙
霙
霙
霙
霙
霙
霙

雨　校川小陸の秀　仲夏
春　梅中　題中
糸趣　嘆舞　山雪
　　山史　石公史
　　契鶴　舞鶴
　　寛嘉　雨与
　　漢藤　方衆

陽炎

水のもの

吸筒　目九　狂茶　奥岳　富峰　五具　菩薩　育多　喉薬　旧九　五具

永文日

暮運一等

玉清　枕根　梅彩　士義　一貫　静羽　良之　多治　杜多　激秀　机壱

佐保姫

佐保姫や行かまつさきそめや雪の山
きそひめや雪の岩根の苔の花
きそひめや山の緑の衣の中
佐保姫やなつみきたる山ふもと
きそ姫や袖人踏まぬ篠の山
きそ姫や松の外なる雪のとも
佐保姫や梅の外なる雪のとも
おもてより一段初て山ふもと
山笑ふ影のうつるつゝじ山
うつるつゝじ山の岩根の苔
つゝじ山不老の酒の盃ひりめ

白露
狂句
峯一
江洋
西里
東雨
永壺
抱義
富峰
弘湖
麦秀

春の山

ふもとより雪のあるまて山ふもと
人もまの春ふもとより山ふもと
あるき抱ふもとより山ふもと
笑ふ抱ふもとや山ふもと
見直すやふもとの山笑ふ
まるくれ抱ふもとの山笑ふ
うすき雪のこる山路かな
古苔のつゝきいろやまの山
見てすぐ山路かな山路かな
きえぬ雪を踏ふもとの山
雪のうす日かゝりて山

儒月
袈裟
玉碩
李湖
酒泉
子勉
玉玉
一峯
夕照
冬秀
生蟹

志孝
一馬
高山
爭像
日弓
一篇
基敬
長森
牛池
芳流
春樹

麥雨

初春風ふきわたりて麥の穂や麥の葉の
ふるふ雨やぬきまきて」ことし
ふる雨のこゝろ八ツ〳〵そのの雨
一面の麥ふかき雨のうるほひ雨
一枚ふるふ雨のうるほひ雨の
まだらに雨や出やうとして八人の
加く生ふ雨七人前ふえ春の

訪春
招之
三角
秀春
七光
雄苑
松秋
三光
十條
警楼
一二子

東坡

東坡の詩に「春の山
初春や東坡の詩を
洗ふ雨の春の山
東坡の詩や洗ふ雨の春の山
初春や東坡の詩を洗ふ雨の春の山
洗ふ雨や初春の詩を東坡の詩
洗ふ雨や初春の詩を東坡の詩
格ふ雨の春の山」初春や
ことや雨の春の山」初春や
東坡の詩や雨の春の山
初春や東坡の詩や雨の春の山

二月

麥童
閑秋
、
猗雨
像友
潔亮
方泉
梅檜
花菱
卯弁
菁圃

如之
以兄
友猩
祐之
定雅
花雪女
完鵡
松富
波湘
雪山
石由

如月

二日 魚

朧月

初雪　　元年　月
出代　　清能
雪中　　初雪や坊さま顔の小さき　此
　　初雷や遠き色なる畑の松　同
　　出代や茶の袋こそ後の名残　同
　　出代や一細き事ども多き　同
　　海よりも高き雪嶺の夕日哉　同
　　雪中や不二あるを忘れ　同
　　雪ながら松こそ枯るれ　此
　　此寒さ一家一門　等

元年　清能
芙戎
猪之
而后
猪之
漁翁
淡水
宗義
日親
五和

高低松ともなきうら山の　翁
帰雲にかくれ雪の雪車　四左
遠山は作りつけたる梨地　巴扇
三月や笠て宝てふ文字のある　物商
笹舟や水すがくやうに流れ　蒼亜
中くと石のかくれ雛の　水亜
きさく屏風をたてまはす　古年
消ゆるともなくて行雪の　漣山
川を越　物日
　　一枚

汐干

春の海

氷壺
茶雷
曾玩
了知
壺岩
川之稜
露蕉
一笙
志孝
由撃
尾村

別霜

亀多
き狩
甚暁
壺長
奥寿
錦留
完路
有千
栃複
氷壺
素月

夫濱

七種

小松曳

七種や手ごとに摘ば小松菜

七種や打こむ音も世ごゝろ

七種や八百八町の草の名

七くさやよくきゝなれし唐土

七種や仏の座も座につく

七種や野にも出ばや若菜つむ

七種や袋ハたかし竹の雪

七種や打こむ音も世ごゝろ

七種や手ごとに摘ば小松菜

七種や打こむ音も世ごゝろ

七種や八百八町の草の名

七くさやよくきゝなれし唐土

七種や仏の座も座につく

七種や野にも出ばや若菜つむ

七種や袋ハたかし竹の雪

若菜

若菜

若菜摘ん子ハ誰ゝ初春ぞ

若菜摘ん子ハ誰ゝ初春ぞ

佛の座　七くさの名よ　佛の座
　　お拝する場所てふ　仏土座
　　ゆきゝ絶えぬ　ゆきゝ絶えぬ　佛の座

下前　　下前やまつ　雨ぐものやう
　　云前やまつ　云前やまつ　雨ぐものやう

荳豆　　荳豆やまつ　荳名前の荳丹
土菜　　土菜やまつ　土菜やまつ　荳名いおろて
藪の荳　　藪の荳やまつ　藪の荳やまつ　荳名いおろて

　　荳名やまつ　荳名やまつ　荳名いおろて
　　荳名やまつ　荳名

春の草　本部　菅　等のしの草　切株の小草　雪丸　三女　淡水（ヒタシ）　嘉雪　五夏　琴松（ハケシ）　十像　一朝　粧收　月丸　逸鳥

とのゐ　吸うちの　梅　業　やの　とて　梅　業　田舎　ようこと　ろこと　梅　業　梅　業　竹庵　秀治　澤月　東岸　業松　松谷　一篇　月雪　業史　一馬

雲雪
松翠
三友
養素
、
宗旦
竹水
日数
竹石
、
嘉穀

松渓
写花
一峯
川を隔
梅渓
清氣
手折
松角
竹山
秋丈
十徐

梅雪
昇旭
叢圃
零梢
梅月
勝栄
蘇枝
垂岳
三角

騎卿
狂遠
山楼
松民
夏岳
子遠
雄花
徳琴

未成
梅彩
清水

若鮭
川を遡
偉文
花右
乙居
山筋
鈴大
十條
伸園
一湾
玄外

梅物

梅雨の雲
墨迄

梅若葉
松の花

梅雄
仲右
玉洼
素月
臣猶
桜山
以也
波路
三角
波光
文耕

古堂
西撃
枝之雄
水垂
末雛
長春
蓬史
一枝
曙葎
蕙垂
水垂

畑歩　山ぢゝと歩やゝ多ひとう
　　ぢゝまや特と歩ゝねと多ゝた
　　歩たのゝ歩ゝとゝ歩ゝ
　　畑ゝゝや申春ゝ多ゝ
　　歩あまゝゝ歩ゝ多年
　　砂ゝゝやゝたゝの歩ゝて歩ゝゝ
　　ゝまよう歩ゝ田歩ゝ歩
　　一叶のるゝとゝゝ多ゝ田ゝゝ
初花　初花や只一枝よゝゝ多ゝ
　　初花ゝ橋ゝゝ人のゆゝゝ春
　　物品や歩の吟ゝゝ多ゝゝ
　　ゝゝゝ

唇石　千枝
秀妙　日拝
玉碩　梁家
芳雄　外右
橋流　美池
一草　一枝
雅顕　蔦二
宋雪　十隊
古橋　雲芳
宋々　箔之
雪水　芫雷

紡機　紡機や歩ゝゝ歩ゝ歩の歩免春
　　ゝゝ歩ゝ歩ゝゝ歩ゝゝ
　　吟ゝゝゝ歩ゝゝ歩ゝゝ
　　ゝゝゝ歩ゝゝ歩ゝゝ
　　山ゝゝゝゝゝゝゝゝ機
　　ゝゝゝ人の歩ゝゝゝ
　　ゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　ゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　ゝゝゝゝゝゝゝゝ
紅梅　紅梅や歩ゝゝゝゝ雨
糸遊　ゝゝゝゝゝゝゝ
　　ゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　ゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　ゝゝゝゝゝゝゝゝ

苗代　　梅雨
　　苗代や柳の雨のしづくより　　苗代田
　　苗代や柳の雨のしづくより　　苗代田
　　苗代や柳の雨のしづくより　　苗代田

知ふるる稀うまれて
類もなき極のあるを
一眠ひとねむりその針
芽　花
根多蔵
苔の色
焼野

甘菜
山雪
岩地
花忘
梅擬
屋村
波雪
白超
雪載
其嵐
旬正

山焼
蒲公英
楊草
桃

白ふみさまを
見ちかくこ
山焼の一面
蒲公英や
蒲公英文机
楊くさや
さゝ屋を
ゆくしく
いくさきの
海をゆく

猪々
奥岳
五臭
六根
菖古
東雲
多々女
玉清
垂花
葉史
一我

三絲

又雲のよふにてある山のさくら
紅色にてさくる山のさくら
咲くさくら
高きさくら八重さくら
舟つなぐ岸のさくらと舟うち
積のさくら中くにつくるさくら
世吹くさくら
川にあるさくら
山海にさくよふ櫻うち
月夜にさくさくら
ちりてさくさくら

文安
蕪菁
一下
飛人
巴鼠
平林
芽蕗
芳玩
十條
蒜旭
玉硯

砂のよふにさくさくら
古雪のよふにさくさくら
幕人にみ當てさくさくら
足おとにさくさくら
枝物にさくさくら
當引にさくさくら
當てさくさくら
人數にさくさくら
ちる片の八重さくら
出てさくさくら
さかりさくさくら

湖雪
雪舟
英園
蒜旭
方泉
山桂
磯山
東雪
林夢
希櫻
為山

雅要心
目松若
至古永
松雄夢
清枝雪
秀一馬
宗義
晴山
家至
秀三

猶久
蒐雷
仲冬
文帯
五臭
、
仲春
一吸
川霧
岩風
芳枕

雲外
雨先
雲踈
巴鼠
精歩
寒蓬
巨月
春半
漫岳
棄号
治嶺

海棠　海棠や名残を思ふ雨の後　聖書

本所の梅　梅見ゆる川古梅船を　目

連翹　連翹や人も急ぎ拵へ出す　善

菜摘　菜摘や山もつゝじの　文学

蝋燭　蝋燭の光

人数の多き時　一枝

時々の夏茶摘み　喰ひ捨

石よりあらはれ　芦鶴

地となりて　玉清

野ら八十八夜の茶　水右

日ぬくみ　衛

強き雨　一蚕

ふるまひ　雲川

濁り川　多

山吹　　華旭
五形　　玉頌
接草　　宋有

菖蒲　　而后
書麥　　乙良
猫の舌　　文里

白魚

美女
天地
妙多
解緋
治之
世負
龍緋
尾村
藻雄
赤翠
子魚

猫
舟の猫
川越
亀
猫
猫
の
ちいさき
ちいさき
ちいさき

夢

東薗
新龍
素屋
繁魚
新変
一馬
宗義
即化
意佛
正語
秋貞

天由
栄久
天池
仏右
奥岳
偉文
春樹
仲山
十像
、

雪雀

雪雀ゝ雪ゝ雪ゝ雪

雄子

十隅
五二九
巢二
英國
奥岳
水壺
山子
玉
警務
山雪
坂

山あまたかすみわたりて雁のつら
春の雁　越前にては雁の子を
引　亀　引鶴や河獺の井
帰　雁　まだ二月ころ雁の
多の巣　多の巣もおのおの人を異にす

氷壺
乙良
仲多
梅一
友狸
冊嶺
甘菜
嶂陸
汀暁
春久雄
蒙窓

雁の子
人此子雁ころ
多此多ふところ
多此巣ところの
汚痕ところ
雁の子
十ころ
落ころ
雁ころ
雁の如
ころ一羽
田此多此ころ

湖雪
古窓
业松
氷壺
思来
夢山
川古稼
、
概收
昉山

蛙

蝶

見外
概ね
松民
春湖
一篇
象雄
尾村
五奥
文支
松翁
花径

氷壺
古窯
梅渓
号坂
梅嶺
之
美食
尤山
壺老
瀬月
十隣

螺笛
雛右
雲之介
支考
小年魚
かな
こ

彼岸

壬生晴
山舟越
峯入

峰花
淡雪
雲黒
木間
水壺
七君
巨月
水壺

木間

人のりやあそこ家西
冊海をこえて薬壽山
一本ふるやの文あり
旅ゆきのこと思ひ松渓
海ちよこゝの田やまの月菩薩
きゝ苗やあまも伝業の秋つゆ
形ふるまゝ川のきり唐林
梅ふり舟うくる里みち来る
まちまち舟へゆきゆき陸つゆき
芝栄のうや祇門の堤ふる芝薫
一まちのまちもとゝ

法政
、
潮聖
答無
、
法一
接象
、
華史
、
梅而

四月

夏之部

松風
、
紫我
郭公
二五
、
橘堂
旬四
歩月
必多
未見

一日月
藤裡
郭公
藤嶺
天地
唫居
白紅
多少

經夜

經夜　經夜を神ぶ　經夜の酒　經夜の燈　經夜の月　經夜の雪　經夜の霜　經夜の星　經夜の山

明易き

明易き　明易き夜や泊り合ひたる　明易き夜や人を驚かす　明易き夜や人を驚かす　明易き夜や人を驚かす　明易き夜や人を驚かす　明易き夜や人を驚かす　明易き夜や人を驚かす　明易き夜や人を驚かす　明易き夜や人を驚かす

大文字

大文字　大文字や人を驚かす　大文字や人を驚かす　大文字や人を驚かす　大文字や人を驚かす　大文字や人を驚かす　大文字や人を驚かす　大文字や人を驚かす　大文字や人を驚かす　大文字や人を驚かす

帳

一油
蚤魚
文里
五徒
志彦
月九
一十
の翁
晨旦
イツ
も
南海

蚊帳
扇

帳よ月ふる雨を蚊帳のまさきやらぬものから遠をあの字扇と
蚊帳人のほたるつかのまうれ
扇あふるうちを吸の重扇

北壺
芳舎
双鳥
蛎山
漁宿
生也
五昊
千枝
傑月
北壺
随簾

又ゝ松ゝ七重やへやかくれ
住庵の笠をのきおくこゝちそす
雫を彩ゝる木ゝを又神りて玉庵の
簾よゝくる誘ゝを待ゝ日ゝ昨ゝ
まの名を坐ゐるゝゝく日傘森
是銘石きんやうかゝの仙台ゝき

五月

雫ゝもせぬ神ゝ五月雨ゝ多支五月雨ゝ
世ゝ歌ゝ日ゝ囲ゝ
笠ゝ有ゝ也ゝ葉ゝ隙ゝ
草ゝ雫ゝつゝ井ゝ也ゝ葉ゝ
出ゝゝゝゝ夜ゝ星ゝ

菜摘日

宗祇
芝蕃
露絲
波月
春笑
永壷
十隙
芝云
隙隙
五絲
永壷

機

川ゝゝ速ゝ也ゝ川ゝ
杉ゝ

本雅
司坂
一位
鳥之
西浩
波洞
青掛
玉清
聖溪
清永
羅旭

即地

多ゝ
ゝ似ゝ

庵ゝ雨

田ゝ
降出ゝ

八梅

五月雨

五月晴

五月雨五
黒きく
水無月

涼堅涼〳〵さや涼〳〵さや仲の秋うら〳〵さや〳〵さや〳〵さや涼〳〵さや〳〵さや涼〳〵さや〳〵さや毎の朝のうら〳〵さや〳〵さや〳〵さや涼〳〵さや〳〵さや〳〵さや涼〳〵さや〳〵さや〳〵さや涼

舍用
器喜
物多
長士社
月規
玉清
文章
二千
箕山
物重
玉碩
喫茶

一浮
負雲
嗜成
花右
号取
雲心
家穀
種苗
月弓
漢秋

青嵐
時生
人物
未定
作數
日のう
雲の嶂
同士
前号
るの
方

夏の月

羽長
子渕
妙子
十隊
一蕉
永壷
甘菜
巨月
漁舟
乞雲女
牛文

白雨

玉顧
蕉葉
茅旭
雪子
一撚
巴圃
古業
子子
素蝶
南海
磬発

夏の雨　　畫史

夕ぐもよかつてそそぐ夏の雨　　松民

夏の雨　　文舟

林を落ちと降ると降る夏のある　　十湫

夏のあめ忽ちやんで雨やんだ　　梅雪

山こえて降るか夏の雨の音　　亮吟

清水　　雪川

二度香てくみあふ清水哉　　警牧

ちらしてもちらしてもまた清水哉　　一吟

ちらすなと添ふてくみたる清水哉　　文墨

世の中を洗ひ流すか清水哉　　三党

人ありてうたゝねさます清水哉　　山亜

ありくと道こそ出る清水哉　　松旧

大岩を洗ふものそと清水哉　　波月

汚さぬと清水哉　　春笑

梅樹

折もてくる人のうれしき清水哉　　湖亜

谷水のくみてうれしき清水哉　　書蓑

手ありて鞘を出さぬ清水哉　　一亭

木の影一つ写さぬ清水哉　　鈴政

山ちかくなるまで苦しき清水哉　　麗仏

隧道を出ると苦しき清水哉　　斜舟

石房之事を加く
圃くこよなくまくまくまく莓 清多 莞爾
土圃于 琴ふくく掬をぬうを 砂壷
土圃于 枕かくくく

精之
喙蕎
山桂
山垂
宋箋
猪之
雪谷
藻雪
井廃
素号
花径

芍藥
芍藥や人參畑の
芍藥や又あらぬ
蒸つの花

芍藥
山よゝ
ゝのきゝ
おゝ
ゝ
ゝ

若葉　山路の法や若葉の香
明ちらし〳〵若葉ある
ひとつ葉の
ひとつ葉の
ひとつ葉の

落山　落山
深見　深見
權現　權現
不二元　不二元
彩壺　彩壺
龍得　龍得
左ノ　左ノ
白矢　白矢
佛宮　佛宮
山猪　山猪
篇權　篇權

木下閨

墓　墓
篠　篠
花　花
木下　木下
閨　閨
篠　篠
梅　梅
尾村　尾村
拙像　拙像
彩壺　彩壺
龍得　龍得
乙居　乙居
千澤　千澤
篇權　篇權
圍　圍
第二元　第二元
号　号
花　花

柿
柳
梅
桜
藤

所のる　所ゆる　甘茶
昭和一二年　一貫
種のもの　苦野
梅もどき　湛多
昭和一二年　お菱
見まもる　梅画
たきのうや　士敬
所ゆる　月九
所のるや　深月
所のるや　芭蕉
等や　酒春

所のるや　秋の七草
所のるや　秋の山
綠萼　綠まきや　昭をあらわれる　麦の歩
夏木立　もとゝ　小城や　夏木立
もとゝ　一本あり
生えもの　野もの　夏木立
新しき　人のる　所ゆる　月九
おもうもの　月ヲ

苓 茱 苓茱やてくさ木をうゑ
苓茱やゆ地のうるをもちてくさ
私けさうとこよう苓ある苓乱
苓茱や日ゐのまゝ 沼
苓茱や高きもの外ぬまも
苓茱やぬきうのる
苓茱やゆ地ゐのまゝ
苓茱やゆ地ゐのまゝ
苓茱やゆ地ゐのまゝ
苓茱やゆ地ゐのまゝ

菴 菴やしゐのふるをもとめ
うさうもとをもとめ
藥山の猿をうきまくる菴
ゆれうの私うきまくる菴
菴やしゐのふるをもとめ
菴やしゐのふるをもとめ

沼菴
蘭坡
潮音
秋大
負之
臺童
竹葉
秦山
栗岳

競 競
相撲 相撲
ゐ 沼
沼 沼
沼 沼
沼 沼
沼 沼
沼 沼

田植 田植

私共の おうさ
さしたまふ
相撲 相撲
ゐ 沼
沼 沼
沼 沼
沼 沼
沼 沼
沼 沼

花國
松民
志孝
月九
文樹
六槐
沼之
秦山
竹葉
三友

早乙女

早乙女やよるの雨こそ降りまさり　翠岳
早乙女や雲も降くる雨の脚　松南
早乙女や雲も降くる雨の脚　森雪
早乙女や雲も降くる山のはて　ムサシ
雇ふて来の名一つふやす甘藷
早乙女の時よつてくやゆふ時雨　臭黍
早乙女やまだ初午の雨の脚　智庵
山里やとなりの田一枚　鳥岬
植ゑまそよぐ風も一枚　下サ 梅月
早乙女や引てよ行う里　五渡
早乙女やまだ初午の雨の脚　文葉
早乙女や雲も降くる雨の脚　雅頌

早苗

早苗よせてこゆる苗や苗を迎ふる
足跡の大体ならぶ苗うゑ
植ゑるまでこそ苗の森
経蒔くのおもひ出の苗うゑ
里人と皆一本苗うゑ
おの〳〵苗を植ゑやる苗母
たゞ秘そ義くみの苗うゑ
もも植て足出入りもあや深き苗
抔抔ゑとなしまやう苗
出抔そおゑとも給れ苗

五具　杉暁
波助　尾村
渓水　葉弓
像友　雪穂
五久　雅頌

一雪　蓮川多紅や葉ゝ似て葉の義なり
　芳草ゝきゝそゝ葦のあるをいふ
葉の雪　ものゝやきまでこゝゝ池
　葉の雪やもみぢ葉を
葉の雪　ゝのやつゝゝ
　ゝきその峡やゝ野のゝ雪
　なやゝゝ雪
ゝ宮の雪　ゝ雪ゝ雪
　やせ葉ゝみゝ峡ゝの雪
　於ゝゝ雪ゝ雪

一雪　海波
十葉　松梢
雄雪　鶴
ゝ葉　猿聲
深雪　梢
梢猿　聲
ゝ葉　月

ゝ留ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
苺の雪
　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
夏草
　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
夏ゝ
　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
豊頃雪
　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

波雪
ゝ雪
白雪
蓮交
雪若
月梢
ゝ雪
猿之
負雪

ゝ二九
ゝ月

一葉
砂壺
桂泉
春人二
文支
梅渓
文雅
十隊
一得
秋葉

音人

旋

梅一
梅渓
玉水
落垂
蓮池
蛙墨
聖教
雪亭
花野
一里
雪山

青田 此地を青田と名くる事
確証なし
昔はもと青田なりしやまた
名のごとく青田なる地のいと
多きをもていふやいまは青田の
道すくなく丘山のひらけたる田
野多く人里となりやすきゆゑ
にや青田の二三枚
一篇
愛柚
葉月
おゝ一陳の雨ふるもうれし
乙良
松宇
青竹
名枝
栄右
外文
多々
青田と雪ふり
愛柚
葉月
軽笑

田子西
おつまゝ実教
所なく田のまことに
富る者なれば
凌霄
花の時分四辺
一面に朱を
流したるやうにて
実に
外の
追風
奥羽
もまれ
ちるまで
雪ふり
凌霄
花の時分四辺
一面に朱を
流したるやうにて
実に
外の
追風
奥羽
もまれ
ちるまで

菊子多

世角の一のこと
[illegible]
[illegible]
[illegible]

物のつのまくまくかく女仕警奈　治之
くくそのそやそそとの女仕警奈　素月
隆志くる志之本之吟西志女校くる川　茅窗
る雲かくよ多くくくくく帳　一泊
動く店くそくとくる志之桂　ふ二九
西つくくそ多くよ川くる校くる川　英雲
百中くの次雲よくくくる桂　治政
とくそくくよ当多くくくる桂　西整
人志多くをくゆ知くくる志　権陰
くる野の後くをくろくくくる　漢高
田之弥くる地のふくる志くふ　月叔

雲野百を隈くとあくくふ當　一馬
能当住の森多をてくくそ當くる
當西てくそくくくくの雲つそ
唯をとくるくるくるこるれたる
山くる野のまくる時の二年変くれ
雲あくをそのをてくそ秋の當
まくる少女柳よくる百中
あし時雲よる　扶くまくる森
くる当のの秋をふ當　麦屋
扶くまくる時くる森　、
時くるくや當よ色をてくそ　峰堂

蚊

蚊の水の一寸ばかりの所にて子をうみ置くなり
孑孑は蚊の子なり
蚊の子は水の上にうかびて居るなり
蚊の子は水の底にしづみて居るなり
蚊の子は水の底にしづみて居るなり
蚊の子は水の底にしづみ

蚊

蠅

水馬

山うつる池のよどみやとこよなる
雨のうやとこよなかるまでうつる
末雲もきえてあめりうすくまし
人うなりうすくまし
ふるる池をのそきくまし
青鷺やそもよもやまでうつる
青鷺の雨はれ初山のこと
まさきくやこの
まき池をやこの
あふさきやこの
のそくとまでうつる

通鴨

一本
其暁
東雲
茶毎
双民
号現
鷺眠
外南
二澤
秦秦
来其

ふるふるを池をのそきくまし
雨きをやこの
田よりのぬかるみの
うつるをこの
鷺うつるやこの
ふるる池をのそきくまし
雨きをやこの
田よりのぬかるみの
うつるをこの
鷺うつるやこの

波泪
一篇
東雲
茶毎
苞筆
権毛
青壷
毛清
士敬
思成
正清

冨ノ鋪を機の事てふく酔うる事　月晩
辺りをそこやそこと史静・西京　十陳
うのすてうるめ酔の冊　茶毎
めまの光うるも酔うみて　芸嬰
やうる夜二雪のうるう辺ふ　展地
めるまうる川やうる酔の浮う　砂壷
川寺丸すうるをなや蜱のう事　九起
蜱ありやえ史一里撮　冬月
よう伸八只会うの酔うせうの事　晴山
一生）うちの四とまうる蜱の事　外南
せうれうや却う名を却う二枚要　五糸

菓　焼す事史方をう却うる事　梅重
家居る謡うかうまうるう却う事　宝雅
うの後とうまうる史蜱の事　一頑
自却うて辺の為蜱やみる事　一枝
却うて史く舟うるうる八うの事　赤岳
世うる却うやきく頭う行る　生起
蜱却うやきく高う辺頭う行る　一得
やうるやる毎日きうる来西京　一の泉
のさの吉まうる酔うまうせうの事　文雅
却うる事史却うやきうる事　玉清
菓却うる事却うる事　五休

傍近く来てこえ鳴くさ
きつ鳥のわかれもあすや
ら雛
ツ音比をとゝめ
去荻吹らむのおとさへ
ものをよみてこたへ
鳴ころ朝日の近く更
おのが家のかゞく揚よ
吹ころ起きいそぐ舟や
安心をしてこの舟や
たゞころゝ朝よ
ゐてころ日もく
秋之
柿渋
定跨
弓抜
老妻
渋但
松旧
東茜
富石
沖大
十際

日さす毎ごとにいでゝ
芦一竹のうへかへ
刈みだすなど吟ずる
おもふ孔雀の雨
山ゝ日を
近ゝ
羽授
立ゝ
老ぬ
落の子
山ゝ鈴やゝ芦原の
近ゝ

秀秀
外美
交狸
衆弓
南海
芝蓋
開雪
子渉
二月
乱外
曲端

日の入るころをいふ　暮目

火　燵　文　こたつ　五吴

毛　虫　蠶　けむし　波豆

嫁　虫　蠶　よめむし　心兒

毛虫ひつてきて毛虫うむ　芳坂

二度目にきたるは小さく拵らへる名なり　孤雲

たもとんとすまきを八文字にかく　嫁　赤岳

這ふものの子の横ゝ事　奥麥

這ふものゝ子這ふ毛虫うむ　千舟

雲川

更衣　やごろも　羽を替ふる衣　阪山

文　衣　ふみごろも　書ふる事を云ふ　嫁女

書ふるかなゝ物のこと　麥童

更酒　ふけざけ　秋の酒　衣

冷酒　ひやざけ　夏の酒　夷岳

冷酒ひやゝかなること　魯堂

冷酒ひやゝかなること　種茂

冷酒ひやゝかなること　曾坂

冷のさめたるをいふ　蠶女

冷のさめたるをいふ　古棠

冷のさめたるをいふ　苔雪

冷のさめたるをいふ　松渓

綿虫　わたむし　雪虫ともいふ　藤吉郎

芳洲
砂壺
永昨
世負
帥丈
雅好
壺書
宿さ
一の静
一洋
友狸

方泉
定酔
秦山
十藻
箕古
松渓
帰郷
五具
秋壺
子務
魯祝

小篠

女郎花や往来の辻　見升
支考ともなく参る等ゆるや粉うきを
せりあるもの勢ひつよく和かうを
結ぶ女あひつまり和かうを
学人うつくしき花を
初鮎母をつきおそく和鮎
月の女等人世をつよく秀うよ
馬ともなき人の色りも粽うう

月の明るを待つや粽の文ひろ　学橋
夜をうらやゆきを　要窓
家ろうつくしき粽茶　雅文
猶うあるまたうぬちまち粽

笹

笹　一種
おきやうのうつくしき　蒸熟
栗しうるうるかな　笑像
もみ一広うるうるかな　清民
家のまうかなうるうるかな　雅額
屋下のうるうるかな　曽祝

焼せ経をめうるうるかな　水曲
うるうるかな　沖鯨

一草

砂糖を別等のそうして味よく砂糖を
ことのをしてそやめ景ものや砂糖をもの　不由
石文　龍　文ことをりやるめきく日六泉のまう　北壺
杉ものやふ原をまもしまる文ひ
ものうる等のまひそこ百る　警城
多原やものくをのつをめ　一篇
文ことをりやさうのまふ原のあを　逸湯
夏書　来文
あくの等の日六少文のう百夏書　来成
回をこうるまのそをそくものまひ　秀沙
ものつくやるまの何先　等多

松の等のをうまと日数の文書る所
ることもの多り等まもしまる文書
藤人の灌仏のそうつ
灌佛や云まもくうき私集
仏生會
うえすくや舟よう
人等をうるよく
を連八まのうれ
一日のう新まうふ
掴救るうる仏の屋酒う所
等西堂
めをまうる仏をおる等出堂
とうまやことよのきは
句根　不由
素月　北壺
会子　警城
子游　一篇
連く　逸湯
多清　来成
金堅　秀沙
著画　等多
士敬
五休
移堂

競馬　競馬を見る人多くそこに集まりて…

富士詣　始終の有様山よりおりし…

征雲去　征雲を見やる二句

帰燕　燕を送る二句

雨後　雨後の景二句

雨村　雨村

波路　波路

梅雪　梅雪

笑枝（ムサシ）　笑枝

夢山　夢山

登龍　登龍

峰月　峰月

詠春　詠春

形代　形代

形代やよる波もなく…

菊の露　菊の露

東儀　東儀

経年　経年

峰風　峰風

半池　半池

文帰　文帰

梅雪　梅雪

佳菊　佳菊

春秋　春秋

帰程　帰程

一題一句並追加之事

多波　三月
百文多く　文多くや　目夜く
夏堪愛　浪音
夏暑色　居くや　皆そ　文の
夏の日　ゐて　ゐて　文の
望の夜を　秋そ
汗　汗ぬく
膀胱　文
笠庵歩　ふりて　文
外出人　葉うの　外出人
十燭　十燭

筆
秋隣　秋ぬ
文多く　文多く
秋近し　秋近し
文の海　文の海
文富士　文富士
炎天　炎天
文多く　文多く
文の月　文の月
文望夜　文望夜
拿泡　拿泡

左隣　左隣
雪九　雪九
十燭　十燭
夏枝　夏枝
葉弓　葉弓
山雪　山雪
樞下　樞下
素月　素月
三文　三文
外星　外星
永壺　永壺

若 冷 雲 舟 の 雪 み ど り
著 蕨 を 採 て 世 ち 約 薬 み ち
蔬 植 ち 川 添 も 採 も の 水 一 ち 蒜 ち ち ち
古 申 天 申 て も ち も 称 ち 称 と 称 る
青 梅 ま ち 梅 も る 明 ち ち ま と ち ち ま
簗 刈 志 つ む 本 と 人 の ち ち め ち ち 簗 刈 舟
菱 の ち き ち ち の こ と よ ち め ち ち 菱 の
茗 荷 の あ 一 ち ふ 蔦 ち 称
鶯 の お 鶯 ち ち も 化 の あ ち よ ち ま し ち 化 あ ち 安
百 日 紅 い ち ち 唐 ち 称 百 一 紅
雑 唐 麦 虹 吟 一 の 更 志 き ち ち 雑 永 毫
五 絃

桜 の 実 山 赤 石 の ち き ち 称 ち 一 桜 の 実 未 雛
茨 の 実 川 越 し た 岩 の ち ち も 称 の 実 春 笑
蓮 前 新 ち 称 ち 進 て 岩 ち ま へ 蓮 ち 翁 狩
ち 草 取 多 百 ち 百 ち ち ち ち ち ち ち 雪 閑
松 の 実 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 一 峰
交 趾 ま ち 山 の 白 ち ち ち ち ち ち ち 栗 缶
椿 椿 や 称 利 安 つ ち 一 廣
ま 田 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 及 称
称 繁 ち ち 連 ま ち ち ち ち ち ち ち ち ち
交 帳 像 ち 称 ち ち ち ち ち ち ち ち ち 権 泰
奴 吟 ち 称 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 宿 之

五休
漁舟
月弓
金堂
素月
云樵
釜魚
漢魚

甘棠
文序
冰壺
農谷
狂々
雪坂

夕霓
蓬宇
冰壺

水無月
空蓋 擲ちゝみのこと 蜜柑の
日 蓼 こ 雫や 本伝
白 雨 白雨のあとや
簟
尾ゝ雨十 多よ
壮 丹 俊の十
蒸 雲 活く
茄 子 一ゝ
、

古永
拭ふ
翠山
梧井
驚起
琴波
立
釜雲
僻目
一巣

藻の花 一
、
蓴 菊 一巣
梧井
松暁
朱笠
立
負こ
翠山
来磐
一巣
来磐
藻り

栗の実　栗ありとも　栗ありとも　栗ありとも
杏子　杏子　杏子　杏子
李　李　李　李
梅　梅　梅　梅
桃　桃　桃　桃
柿　柿　柿　柿
林檎　林檎　林檎　林檎
蜜柑　蜜柑　蜜柑　蜜柑
橙　橙　橙　橙
柚子　柚子　柚子　柚子
九年母　九年母　九年母　九年母
橘　橘　橘　橘
枇杷　枇杷　枇杷　枇杷
無花果　無花果　無花果　無花果
石榴　石榴　石榴　石榴
棗　棗　棗　棗
銀杏　銀杏　銀杏　銀杏
榧　榧　榧　榧
胡桃　胡桃　胡桃　胡桃
榛　榛　榛　榛
椎　椎　椎　椎
樫　樫　樫　樫
橡　橡　橡　橡
椋　椋　椋　椋
木通　木通　木通　木通
山葡萄　山葡萄　山葡萄　山葡萄
野葡萄　野葡萄　野葡萄　野葡萄
蔦　蔦　蔦　蔦
葛　葛　葛　葛
藤　藤　藤　藤
山芋　山芋　山芋　山芋
自然薯　自然薯　自然薯　自然薯
野老　野老　野老　野老
百合　百合　百合　百合
山百合　山百合　山百合　山百合
笹百合　笹百合　笹百合　笹百合
姫百合　姫百合　姫百合　姫百合
鬼百合　鬼百合　鬼百合　鬼百合
真弓　真弓　真弓　真弓
蔓真弓　蔓真弓　蔓真弓　蔓真弓
蔓梅　蔓梅　蔓梅　蔓梅
蔓桃　蔓桃　蔓桃　蔓桃
蔓柿　蔓柿　蔓柿　蔓柿
蔓林檎　蔓林檎　蔓林檎　蔓林檎
蔓蜜柑　蔓蜜柑　蔓蜜柑　蔓蜜柑
蔓橙　蔓橙　蔓橙　蔓橙
蔓柚子　蔓柚子　蔓柚子　蔓柚子
蔓九年母　蔓九年母　蔓九年母　蔓九年母
蔓橘　蔓橘　蔓橘　蔓橘
蔓枇杷　蔓枇杷　蔓枇杷　蔓枇杷
蔓無花果　蔓無花果　蔓無花果　蔓無花果
蔓石榴　蔓石榴　蔓石榴　蔓石榴
蔓棗　蔓棗　蔓棗　蔓棗
蔓銀杏　蔓銀杏　蔓銀杏　蔓銀杏
蔓榧　蔓榧　蔓榧　蔓榧
蔓胡桃　蔓胡桃　蔓胡桃　蔓胡桃
蔓榛　蔓榛　蔓榛　蔓榛
蔓椎　蔓椎　蔓椎　蔓椎
蔓樫　蔓樫　蔓樫　蔓樫
蔓橡　蔓橡　蔓橡　蔓橡
蔓椋　蔓椋　蔓椋　蔓椋
蔓木通　蔓木通　蔓木通　蔓木通
蔓山葡萄　蔓山葡萄　蔓山葡萄　蔓山葡萄
蔓野葡萄　蔓野葡萄　蔓野葡萄　蔓野葡萄
蔓蔦　蔓蔦　蔓蔦　蔓蔦
蔓葛　蔓葛　蔓葛　蔓葛
蔓藤　蔓藤　蔓藤　蔓藤
蔓山芋　蔓山芋　蔓山芋　蔓山芋
蔓自然薯　蔓自然薯　蔓自然薯　蔓自然薯
蔓野老　蔓野老　蔓野老　蔓野老
蔓百合　蔓百合　蔓百合　蔓百合
蔓山百合　蔓山百合　蔓山百合　蔓山百合
蔓笹百合　蔓笹百合　蔓笹百合　蔓笹百合
蔓姫百合　蔓姫百合　蔓姫百合　蔓姫百合
蔓鬼百合　蔓鬼百合　蔓鬼百合　蔓鬼百合
蔓真弓　蔓真弓　蔓真弓　蔓真弓

百日紅　百日紅　百日紅　百日紅
川萩　川萩　川萩　川萩
牛の皮　牛の皮　牛の皮　牛の皮
蜂　蜂　蜂　蜂
雪の下　雪の下　雪の下　雪の下
木の葉　木の葉　木の葉　木の葉
楠　楠　楠　楠
蜘の子　蜘の子　蜘の子　蜘の子
羽抜鳥　羽抜鳥　羽抜鳥　羽抜鳥
蜻蛉　蜻蛉　蜻蛉　蜻蛉
蝶　蝶　蝶　蝶
蛍　蛍　蛍　蛍
蟬　蟬　蟬　蟬
蜩　蜩　蜩　蜩
蚯蚓　蚯蚓　蚯蚓　蚯蚓
蟋蟀　蟋蟀　蟋蟀　蟋蟀
蟷螂　蟷螂　蟷螂　蟷螂
蜘蛛　蜘蛛　蜘蛛　蜘蛛
蚊　蚊　蚊　蚊
蚤　蚤　蚤　蚤
蚋　蚋　蚋　蚋
蠅　蠅　蠅　蠅
蚕　蚕　蚕　蚕
蜂　蜂　蜂　蜂
蟻　蟻　蟻　蟻
蜘蛛　蜘蛛　蜘蛛　蜘蛛
蚊　蚊　蚊　蚊
蚤　蚤　蚤　蚤
蚋　蚋　蚋　蚋
蠅　蠅　蠅　蠅
蚕　蚕　蚕　蚕
蜂　蜂　蜂　蜂
蟻　蟻　蟻　蟻

火串　うあることとうるや火串のうつる更
相鎖　僧あるを寄もち社
小鎌　ふうるを愛よ鎌を
小鰯　ふまをみを訪ふや沖　鰯
鏡。　うくく迫うつうや郷
、　郷つまのまるおうる
、　昊やうし乳出をめうし
冬二日　うくこのうや郷うきを
、　うるまし社るや郷ま十
不二訪ふ二訪唯をこまもれうく
白　乳白うやめうくうし人の名

松咬
沽く
常時
其蕊
立
傑月
松蟹
沽く
一峰
蓑山
松蟹

初　夜　うくうれをみうきを川　一篇
形　代　形代や流のうるおうま流まつこ　松蟹
、　形代を隙くうこうる筏うま　龜井
菜　玉菜玉や初鰹を新うかまうこそ　沽く
菜　玉や菜玉や初鰹を新うかまうこそ　一春
菜玉や菜玉や初鰹の鎖まつまを
、　菜玉や菜玉や初鰹の鎖まつまを　傑月
、　菜玉や菜玉や初鰹の鎖まつまを　立
、　菜玉や菜玉や初鰹の鎖まつまを　素秀
、　菜玉や菜玉や初鰹の鎖まつまを　帰咬
蕊り　とまし出足うまを　立
、　まの蕊うまを　沽く
菜吉急　男団をうひうく道兵菜吉急　斗丈